

# 学び合う 高め合う — 静岡とインドネシア —

静岡県知事 川勝平太 × 駐日インドネシア大使 アリフィン・タスリフ氏 対談

東南アジア最大の人口と国土面積を抱えるインドネシア。経済成長を続けるこの国には多くの日系企業が進出している。静岡県からも製造業など約90社・110事業所が進出し、同県は県内企業が集中する西ジャワ州と人材育成や経済分野で協力を進めている。川勝平太・静岡県知事とアリフィン・タスリフ駐日インドネシア大使が、静岡県とインドネシアの交流の意義や今後のあり方について、東京都のインドネシア大使公邸で語り合った。  
(2019年2月16日付 毎日新聞掲載記事より転載)

農業に日本の技術を(タスリフ氏  
バンドン精神に共感(知事)

—— 大使は子供のころに柔道を習い、ビジネスマン時代には日本に駐在したこともあると聞いています。日本や静岡にどのような印象をお持ちですか。

タスリフ氏 柔道を始めたのは9歳のころです。柔道を通じて規律を学び、日本の文化を知りました。また、大学卒業後に勤めた企業では1980年代に数年

間、横浜に駐在しました。そこで日本人の仕事の仕方に触れ、交渉術も身につけました。

日本はインドネシアにとって重要な戦略的パートナーで、我々の経済成長にとっては欠かせない存在です。2018年には国交樹立60周年を迎えました。

静岡県とのつながりも深い。インドネシアのバイク市場はかなり大きく、多くの人々がホンダ、ヤマハ、スズキのバイクに乗っています。

また、インドネシアの西ジャワ州は静岡県と16年に友好や交流を進める趣意書、17年に人材育成と経済分野で協力を推進するための覚書を交わしています。西ジャワと静岡は農業分野などでたくさん協力ができるでしょう。特に日本の進んだ農業技術を生かし、農産物の品質向上を推進してくれることを期待しています。

—— 知事は18年5月に西ジャワ州を訪問されましたね。

知事 日本・インドネシア国交樹立60周年の節目に訪問できたのは幸運でした。首都ジャカルタは巨大で活力にあふれていますが、そこから西ジャワ州へと赴くと、風景は緑したたる美しい景観へと劇的に変化します。ちょうど東京から静岡に移動する時のようです。

西ジャワ州の州都バンドンは、55年にアジア・アフリカ会議(バンドン会議)が開かれた所。アジア・アフリカの29カ国



静岡県知事  
川勝平太

駐日インドネシア大使  
アリフィン・タスリフ氏

が帝国主義や植民地主義に對抗し、民族独立、人種平等、世界平和を訴えたバンドン会議の精神に、私は深く共感しており、バンドンはぜひ訪れてみたい都市でした。

西ジャワ州には製造業を中心に日系企業が多くあり、インドネシアに進出する静岡県企業は7割がこの州に拠点・事業所を構えています。ただ、地元には日本人学校がなく、現地では日本人学校開校に向けた取

り組みが進んでいました。私が訪問した時点では政府からの許可が下りていませんでしたが、私がアフマド・ヘルヤワン西ジャワ州知事(当時)との会談で要請すると、州知事は「問題ありません」と快諾してくれました。その後、無事に政府の許可が出て、19年4月に開校する予定です。

ほかに、西ジャワ州では国立パジャジャラン大学で、同大と静岡県立大学との協力関

係構築に向けた趣意書の署名に立ち会ったり、タンクパンブラフ火山の山裾に広がる茶園を訪れたりしました。

インドネシアはイスラム教が多数派ですが、さまざまな信仰をもつ民族が共存しています。インドネシアから、イスラム教徒が排他的ではないということを学ばなければなりません。私は静岡空港の増築でイスラム教徒用の礼拝室を作りました。環境を整えて、西ジャ

ワ州の友人たちをお迎えしたいと思っています。タスリフ氏 私たちにとって祈りはとても重要です。空港に礼拝室を設置したのは素晴らしい。インドネシアからより多くの観光客が訪れることでしょう。

一方、西ジャワ州にはたくさん文化があります。例えば、アンクルンという竹製の打楽器は西ジャワ州を起源とする伝統楽器です。14〜16世紀には



駐日インドネシア大使 アリフィン・タスリフ氏

1953年、ジャカルタ生まれ。バンドン工科大学卒業後、78年国営石油会社「プルタミナ」に入社。肥料メーカー「ペトロキミア・グレシック」最高経営責任者（CEO）、国営肥料メーカー「ブブック・インドネシア」CEOなどを歴任し、2017年6月から現職。

パジャジャラン王国というヒンズー王国が栄えていました。知事が訪れたパジャジャラン大学の名前はこの王国が由来です。西ジャワ州にはこうした歴史や文化を紹介する美術館や博物館もあります。

**防災協定締結したい(知事)**  
交流通じて人材育成(タスリフ氏)

—— 今後のインドネシアと静岡県の経済的、文化的交流のあり方についてお聞かせください。

**知事** 静岡は「海と山の風景の画廊」といわれる美しい県土ですが、地震、津波、火山など、自然災害の危険もあります。インドネシアも昨年、地震や津波の被害を受けました。私はまず、互いに必要なときに助け合え

るように、防災協定を締結したいと考えています。

インドネシアの人々は親切で、働きやすい国ではないでしょうか。西ジャワ州政府は静岡県企業をサポートする情報・相談窓口として「静岡アスク」を設置してくれました。現地にはすでにヤマハやスズキなど多くの県内企業が進出しています。進出企業はさらに増え、関係はより深まると思います。

私がインドネシアを訪問したのは、イスラム教のラマダン

(断食月)でしたが、大歓迎してくださり、断食明けの夕食(イフタル)を振る舞ってくれました。お祈りは、「私はイスラム教徒ではなく、富士山に祈る」と言うので、「そうしてください」と言われました。インドネシア国民の多くはイスラム教徒です。しかし、中華系などイスラム教徒ではない人々は、ラマダン中でも、豚肉やお酒を楽しんでいました。少数派の民族・宗教を差別せず、彼らの食文化も尊重する寛容さがインドネシ

アの素晴らしいところだと思います。

**タスリフ氏** インドネシアは17世紀以降、オランダの植民地支配下にありましたが、1928年に「二つの祖国、一つの民族、一つの言語」をうたった「青年の誓い」を掲げ、それが独立の原点となりました。そして45年の独立時にスカルノ初代大統領が国是に定めたパンチャシラ(建国5原則)では第一の原則に「唯一神信仰」が定められましたが、イスラム教のほかにカトリック、

プロテスタント、仏教、ヒンズー教を公認しています。これら建国の理念の根底にあるのが、知事がおっしゃった寛容さです。それがこの国を統一し、発展させる方法なのです。

静岡県との交流のなかでも、私は人材育成に期待しています。規律を重んじる日本の文化や精神、勤勉性などを学ぶことで、私たちの国の生産性を高め、経済発展、人々の幸せにつなげることができるはず。また、静岡県は工業が発展し

ている一方で、富士山の恵みを受けたきれいな水を維持しています。西ジャワ州では水が工業目的で使用されていますが、廃水や汚染物が十分に管理されていないとは言えません。水質保全に関しても静岡県との協力を進めていければと期待しています。

**知事** お役に立てればうれしい。大使は「日本人の勤勉さを学びたい」とおっしゃいましたが、約400年前、世界経済の中心はインドネシアなど東南

アジアにありました。世界中の人々が香辛料を求めてさまざまな物産を持ちこみ、東南アジアは世界的な交易センターでした。日本人はそこから輸入した物産を国産化しようと、懸命に働きました。日本人が勤勉になったのはその帰結です。

日本とインドネシアはこれから、互いの民族文化を楽しみ、学び合うことができます。経済や文化、観光交流で未永く友情を築いて平和づくりに貢献しましょう。



静岡県知事 川勝 平太

1948年生まれ。京都市出身。早稲田大学、同大学院を経て英オックスフォード大学で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在3期目。